

ながみね
長嶺グスク



長嶺グスク

長嶺グスクは、南部農林高校の北西側、^{あざながどう}字長堂と^{あざかかず}字嘉数の境にある標高約98mの丘陵上に形成されたグスクです。

『豊見城市史』によるとグスクの頂部近くをウフヤックワ（物見台）、その東側をデーグスクと称しグスクの台所があった所といわれます。その他、『琉球国由来記』に記載されている長嶺城之殿や按司墓などがあります。

グスク内には現在、石積み等の遺構は確認されていませんが、詳細な発掘調査によって確認されるものと思われます。また、『豊見城市史』によると長嶺グスク内に存在した石積みは真玉橋が石橋になった時に使用したという伝説があると記されています。

グスクはこれまでに豊見城高校郷土史研究クラブ等によって小規模な発掘調査が行なわれています。

調査の結果、グスク系土器、鉄製の矢じり、中国製の青磁、白磁等貴重な遺物が得られています。特に注目されるのは県内では産出しない滑石^{かっせき}を混入する土器があげられ、九州との交流が直接的、間接的にあった事がうかがわれます。

